ここでは、仕込みから大島紬ができるまでの主な工程を紹介しています。大島紬の製造工程は、実際には３０～４０の工程があり、多くの人々の技と力と知恵が結集され、長い月日を刻んだ後にはじめて誕生します。微細な絣に染められた糸が寄り添って織り成される色と柄。たった一本の狂いがあっても完成できないのが大島紬なのです。

そんな気の遠くなる作業の課程には職人たちの喜怒哀楽が映され、人々を魅了する深い光と格調をそなえています。そして柔らかく軽く暖かい独特の風合いを染め込み織り込んでいくのです。

糸作り

染液抽出

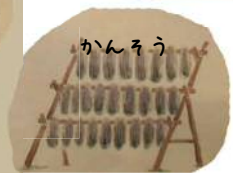
奄美大島に多く生息する
車輪梅（シャリンバイ）。
方言でテーチ木とも呼ばれる。

昔は、木の根を多く用いた。
現在は幹の部分も用いている。

十数時間煮込んで煮汁を
取り出す。（染液）

泥染め（A）

赤茶色の染液で 20 ～ 30 回
染液を変えてもみ込む。



①しるうち・染め・乾燥の工程を
３～４回程、繰り返す。

②全ての工程を３～４回程、繰り返す。

いろいろなものをデザイン化し、点や線で方眼紙上に表現していきます。

大島紬は模様のある絣糸（絣経糸・絣緯糸）と無地の地糸（地経糸・地緯糸）とで織られます。
各工程が最終作業の“織”の織易さを左右する為、一つ一つ気の抜けない作業となっています。

絣経糸

絣緯糸

地緯糸

地経糸

経糸は約 30m 緯糸は約 50m の長さに整える。

かための糊を糸に揉み込む。

天気の良い日に行う。
夏：暑くて乾きが早く
　　注意が必要
冬：寒くて大変。
糸を 12・16 本合わせ、糊で固める。
張り具合が織り易さに影響する。
（防染糊と言っても良い）

糊張りが終わった糸は、
屋内でしっかり乾燥させる。

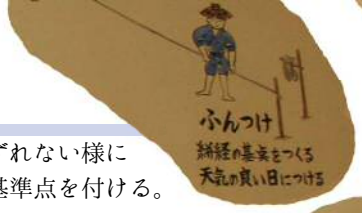
出来上がる種類によって染め方が異なります。

①絣緯糸と同じ工程
②白糸そのまま
③泥染め
④色染め

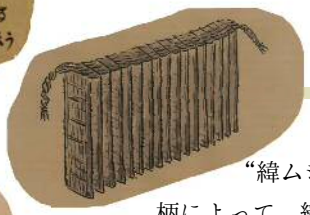
①色染め
②白糸そのまま
③泥染め

①総絣という種類の地緯糸は、絣緯糸と同じ
②白糸そのままのもの
③泥染めしたもの　泥染め工程と同じ作業
④色染したもの

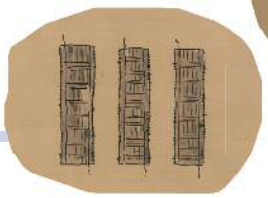
①色染したもの
②白糸そのままのもの
③泥染めしたもの　泥染め工程と同じ作業



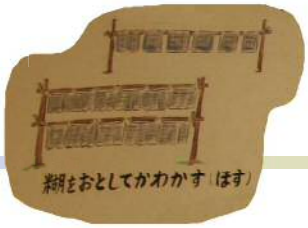
ずれない様に
基準点を付ける。



“緯ムシロ”
柄によって、織り
上がる枚数が異なる。

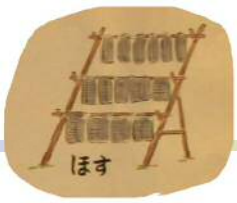


“経ムシロ”
模様の異なったものが
150 枚ほど織られる。



これ以後は、色紬・白紬の主な工程。
泥染めの場合、上記工程（A）で行われます。

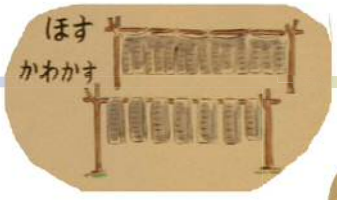
泥染め



泥染めの場合も以下の工程は同じ

図案に基づいて着色する箇所に
印を付け、綿糸を解く。

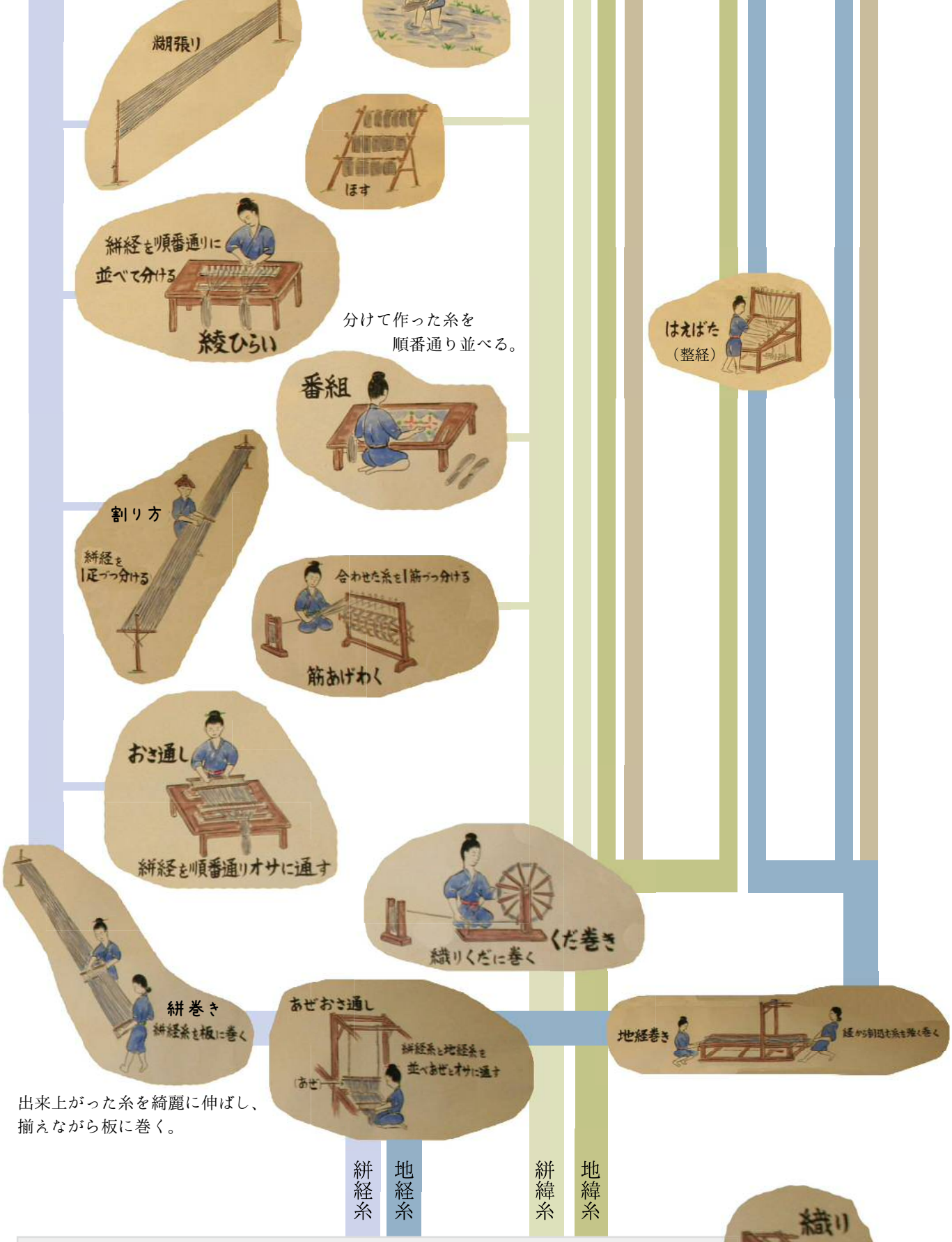
洗って糊を落とした箇所に
色を付ける。



絣防染のため織ったものを解く。

作業しやすいように
綛（かせ）状にする。

薄い油と
薄い糊を付ける。



絣経糸と地経糸を組み合わせて機にのせ、絣緯糸と地緯糸を織り込んでいく。絣経糸に絣緯糸を綺麗に合わせ、模様を織る。7～8㎝織っては、針で絣経糸を前後に動かし、絣のずれを調整しながら織り上げる。糸に模様（絣）を正確に付ける技術が高ければ高いほど、織手に取って織り易い糸となる。